

バスが通った

昔の道は、細いうねうね曲がった道でしたが、明治時代の中頃に、今の武生と西田中を結ぶ県道が開通しました。その後、昭和二十六年から何回も、路線が変更されたり、道幅が広くされたりしながら、現在の舗装された立派な道路になりました。

昭和三年頃に、初めて豊地区内をバスが通りました。十人乗りぐらいの小さなボンネット型のバスで、初めは西田中（朝日町）と武生の間を運行していました。

西田中を発車したバスは、川去（吉川地区）のバス乗り場で客を乗せ、持明寺（吉川地区）の水車の所でも、ちょっとバスを止めて客を乗せ、西大井（吉川地区）のがめ山の山すそを走って一路豊地区へと走って来ました。

西大井から岩立（和田町）に出る道は、現在は砂利道のままであまり良く管理をされていませんが、昔は人や荷車が多く往来した街道で、岩立にはお店が何軒もありました。大八車を引く人達が弁当を食べたり、人の休み所となっていました。岩立の山喜屋（料理菓子やまんじゅうを作った店）が、バスの乗車券を売るバス乗り場で、お菓子を買ったり、将棋をしたりしながらバスの来るのを待ちました。

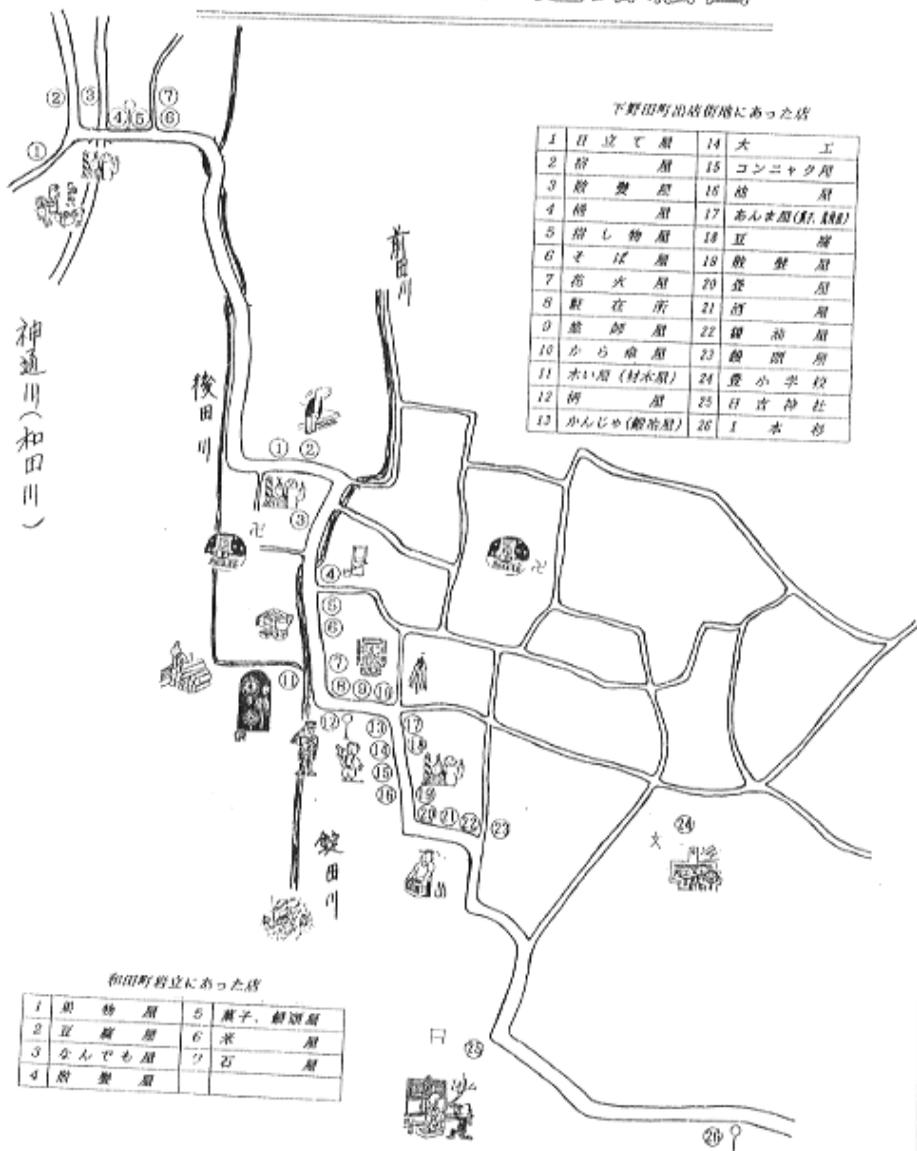
岩立を発車したバスは、下野田町に出店街地に入り、商店街の途中にある栞屋（鍬や鎌の柄を作ったり、大八車の台や車の輪を作って売る店）のバス乗り場で停車しました。お客を乗せると、また、出店街地を走り出しました。

子供たちは、バスが来るのを見つけると、「うわい、バスが来た。バスが来た。」

とバスの後を追いかけて、ガソリンの排気ガスを、

「あー、いいにおい。」

バスの通った道路絵図



下野田町出店街地にあった店

1	日立て 屋	14	大 工
2	餅 屋	15	コンニャク 屋
3	煎 餅 屋	16	徳 屋
4	餅 屋	17	赤んま 屋(赤い餅)
5	餅し物 屋	18	豆 屋
6	そば 屋	19	煎 餅 屋
7	花 火 屋	20	堂 屋
8	煎 衣 所	21	酒 屋
9	煎 餅 屋	22	餅 屋
10	から 命 屋	23	餅 屋
11	水い 屋(村木 屋)	24	豊 小 学 校
12	餅 屋	25	日 吉 神 社
13	かんじゃ(煎餅 屋)	26	1 本 杉

和田町若立にあった店

1	煎 餅 屋	5	菓子、餅 屋
2	豆 屋	6	米 屋
3	なんでも 屋	7	石 屋
4	煎 餅 屋		

と、喜んで大きく吸い込みました。

そのガソリンも、第二次世界大戦中に物資がなくなり、ガソリンの代わりに木炭（木を炭焼きがまにいられてむし焼きにしたもの）を炊いて走りました。

今のバスと違っておもしろいのは、家の軒下に赤い旗を出しておく、バスが停車してくれ、「今、すぐに着物を着替えるで、ちょっと待って」と頼めば、

「はよ（速く）乗っておくんねえの。」

と、人のいい児玉さん夫婦は、外出着に着替えるのを待っていてくれました。この小さなバスは、個人経営で運転手は御主人、車掌は奥さんでした。また、買いたい物がある時は、児玉バスに頼むと気軽に武生のお店で買い物をして、帰りのバスで届けてくれました。今の便利屋さんか、宅配便の前身の役割もしたそうで、大変重宝がられ、利用した人も沢山ありました。

下野田の出店街地を通り抜けたバスは、日吉神社の横に出て、上野田の一本杉（店の屋号）で停車し、客を乗せると、吉野村本保（武生市）から片屋に出て、吉野瀬川を渡り、平出（武生市）小松（武生市）を経て有明（武生市）を通り、今の武生の駅前が終着駅でした。

武生までの道幅は、大八車がすれ違いでできる程度の狭いものでしたから、道路の所々に、待避所（バスの通るのをよけて待っている場所）がありました。

昭和三年に、鯖浦線（鯖江、織田を電車が走った）が全線開通となりましたので、西田中付近の人達は、鯖浦線の水落駅で福武線の電車に乗り換えて武生へ出るようになりました。でも、この児玉バスを利用する人もあって、西田中発武生行きで十年近く運行されました。

その後は、電車の利用者が次第に多くなり、野

田^{はつ}発^ゆ武^か生^な行^りき^に変^かわり^まし^た。柄^か屋^らの隣^{とな}りの車^し庫^こま^で児^じ玉^よさん^は夫^ふ婦^ふは、自^じ転^{てん}車^{しゃ}で西^{せい}田^{でん}中^{ちゆう}か^ら通^かい^まし^た。そ^して、この児^じ玉^よバ^スは、昭^{しやう}和^わ十^{じゆう}五^ご、六^{ろく}年^{ねん}ぐ^らい^まで通^{とお}つ^てい^たと^いう^こと^です。

昔^{むかし}の豊^{とよ}地^ち区^くの^人達^たは、日^ひ野^の川^{がわ}を渡^{わた}つ^て鯖^さ江^えに^出る^より^も、武^む生^{せい}へ^出た^とい^いま^すが、鯖^さ江^え行^いき^の福^ふ鉄^{てつ}バ^スが開^{かい}通^{つう}し^たの^は、昭^{しやう}和^わ二^に十^{じゆう}五^ご年^{ねん}以^い降^{かう}で^すから、武^む生^{せい}行^いき^のバ^スはそ^れよ^りも二^に十^{じゆう}二^に年^{ねん}程^{ほど}早^{はや}い^こと^にな^りま^す。

注 鯖江行きの福鉄バス

昭^{しやう}和^わ二^に十^{じゆう}五^ご年^{ねん}に初^{はつ}め^て鯖^さ江^え行^いき^の福^ふ鉄^{てつ}バ^スが豊^{とよ}地^ち区^くを^通り^まし^た。

当^{たう}時^じは、石^い生^{せい}谷^こ発^{はつ}鯖^さ江^え行^いき^で石^い生^{せい}谷^こに^車庫^こが^あり、バ^スの運^{うん}転^{てん}手^ては^車庫^この宿^{しゆく}直^{ちやく}室^{しつ}で^寝泊^{ぱく}ま^りを^しま^した。

朝^あ早^{はや}く、七^{しち}時^じ頃^{ほど}に^発車^{しや}し^たバ^スは、西^{せい}鯖^さ江^えま^で行^いき、午^ご前^{ぜん}十^{じゆう}一^{いつ}時^じに^野田^{でん}ま^で帰^{かへ}つ^てき^まし^た。野^の

田^おは折^{かえ}り^{返し}運^{うん}転^{てん}で^鯖江^えに^戻り、夕^{ゆふ}方^{ほう}六^{ろく}時^じ頃^{ほど}石^い生^{せい}谷^こへ^帰つ^てき^まし^た。

このバ^スを^利用^{りよう}し^て、和^わ田^{でん}、石^い生^{せい}谷^こ、漆^{しやく}原^{げん}の^人達^たは、ご^ござ^のか^つぎ^の商^{あきな}い^に出^いか^けた^ので、バ^スは^大へ^んに^ぎわ^いま^した。

バ^スの切^き符^ぷを^売つ^た所^は白^{はく}崎^{さき}源^{げん}雄^{ゆう}さん^宅で、鯖^さ江^えま^での^バス^代は^十五^ご円^{えん}で^した。

タクシー営業

タ^クシ^ーは、大^{たい}正^{しやう}十^{じゆう}一^{いつ}年^{ねん}に^鯖江^え駅^{えき}前^{まへ}で^若吉^{かよし}さん^と菅^{すが}谷^やさん^の二^に人^{にん}が^営業^{えいぎやう}を^開始^{かいし}さ^れた^のが^始まり^で、現^{げん}在^{ざい}の^鯖江^えタ^クシ^ーの^前身^{ぜんしん}だ^とい^われ^てい^ます。そ^して、そ^んな^な人^{にん}力^{りき}車^{しゃ}や^タク^シー^に乗^{のり}れた^のは^お金^{かね}持^{もち}ち^か、花^{はな}嫁^{よめ}さん^ぐら^いの^もの^だつ^たと^もい^われ^てい^ます。